

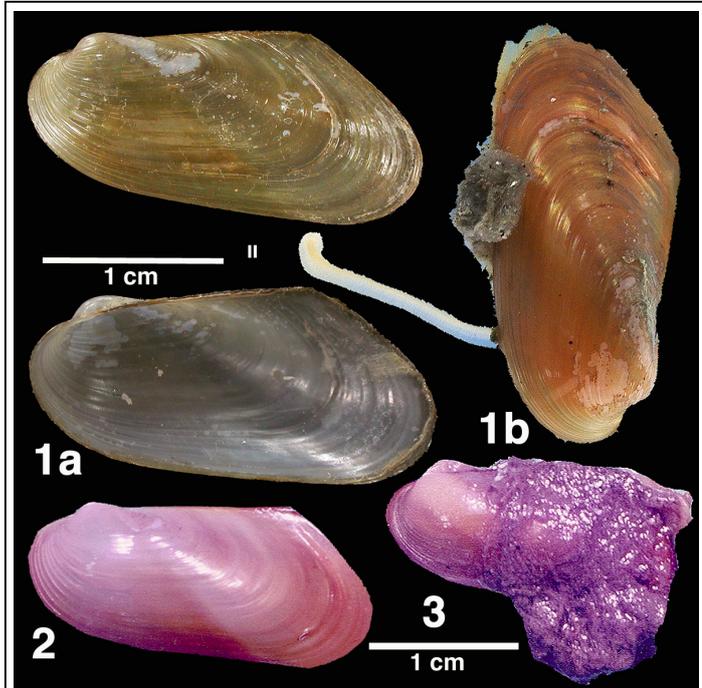
ツヤガラス *Jolya rhomboidea* (Reeve)

【選定理由】

本種は内湾から湾口部にかけての潮下帯泥底にすむ。県内では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化している、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種は三河湾湾口部、伊勢湾知多半島沖の水深5-20 mの泥底より採集されたが、個体数は非常に少ない(木村, 1996: 木村, 2000)。和田・他(1996)では危険にランクされている。近年の名古屋港沖、三河湾、伊勢湾湾口部でのドレッジ及び小型底引き網による調査で、個体数は少ないが、生貝が採集されるようになった。この回復傾向を受けて、前回(EN)よりランクダウンするべき種と評価された。

【形態】

殻長80 mmを越える種であるが、近年県内で採集される個体は殻長30 mm程度。後方に広がる長方形の貝で殻は非常に薄い。殻皮は薄く栗色で光沢が強い。生時には泥をかむった繭状の巣(図3)に入っている。



1: 名古屋市名古屋港沖(ドレッジ水深15 m), 2008年10月9日,
2, 3: 南知多町日間賀島南沖(ドレッジ水深10 m), 1994年10月1日,
木村昭一採集

【分布の概要】

【県内の分布】

三河湾湾口部、伊勢湾名古屋港沖(図1a:殻, 1b:生体)、知多半島沖の潮下帯の泥底に分布するが、個体数は非常に少ない。

【世界及び国内の分布】

日本、熱帯インド、西太平洋。国内では陸奥湾以南から九州まで分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、個体数とも著しく減少していると考えられる。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第35報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18-20.

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

(木村昭一)